JEIU

電機かながわ

第112号

電機連合神奈川地方協議会機関紙
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3－30－5
タクエー横浜西口ビル6階
TEL 045-548-3399 FAX 045-594-6166

発行責任者 岡元 茂樹
編集責任者 広田 耕造

2017. 1. 1発行

電機連合神奈川地協 議長 2017年新春の挨拶

電機連合神奈川地協 議長
岡元 茂樹

電機神奈川地協加盟労組の組合員ならびにご家族の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、旧年中に賜りました地協の各種活動に対しますご支援とご協力に感謝申し上げます。

さて、アベノミクスは昨年末で終焉かと思われましたが、昨年のアメリカ大統領選挙で予想に反してトランプ氏が当選したことから、その経済政策への期待が高まり、円安（ドル高）、株高となっています。このため輸出企業業績の急速な回復や年金の運用が改善しています。これに伴い機関投資家、大企業や富裕層は恩恵を受けていますが、GDPの約6割を占める個人消費が回復しないため、経済は依然としてデフレから脱却できず、中小企業や勤労者にはその効果が波及していません。一方で防衛予算はさらに膨れ上がり、2020年に開催予定の「東京オリンピック」に向けた「箱もの」への投資は拡大の一途を辿っています。

また、国内政治では「一強多弱」の状況が変わっておらず、戦闘に巻き込まれかねない「駆けつけ警護（自衛隊員を南スーダンに派遣済）」が閣議決定され、労働法制では残業代ゼロ法案と言われる「高度プロフェショナル制度」や「解雇の金銭解決制度」の導入が懸念されています。

国民は、北朝鮮の核開発、中国の台頭、英国のEU離脱、トルコでのテロ多発など現実の不安と、年金・医療・介護制度など漠然とした将来不安にさらされています。日本は今、本格的な人口減少社会に突入し急速に高齢化が進展しており、これまで国民の安心を支えてきた年金・医療・介護制度などの見直しをはじめ、将来にわたって持続可能な社会システムの再構築が不可欠です。これらを実現するためにも、早期に実施とも言われている衆議院解散総選挙では、電機連合組織内公認候補である「浅野さとし（新人:茨城5区）」、4月施行予定の鎌倉市議会議員選挙では、電機神奈川地協の組織内議員である「山田直人（現3期）」へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

私たちの働く電機産業は全体的には一時の円高の影響から減収が見込まれています。また、今後の持続的な成長・発展を確かなものにするためにはさらなる改革が必要です。電機産業の成長は日本の成長戦略にも大きく寄与し、ひいては私たちの生活の安定にもつながります。

しかし、2014年から2016年春季交渉の3年間で大幅に賃金が改善されたにもかかわらず、私たち働く者の実質賃金は上がっていません。このため、2017年春季交渉では4年連続の賃金水準の改善に取り組みます。

そして、熊本地震から約9ヶ月、東日本大震災からは5年以上経過しています。被災地では、復興の規模・スピードに格差が生じており、復興需要で生み出される雇用と、被災者の求める雇用との「ミスマッチ」は依然として解決されていません。

また、住宅・街づくりの遅れも目立ってきており、今も避難生活を余儀なくされている方々の気持ちを第一義に考えて復興への歩みを確実に進めるとともに、この未曽有の災害を風化させてはなりません。

電機神奈川地協は「社会に貢献し　働く仲間をサポートする　運動をめざして」の方針のもと、県下における主力産別組織として、その「役割と責任」を果たすとともに、加盟労組の「力と知恵」を合わせ、「組合員の期待と信頼」に応える運動を展開します。そして「障がい福祉活動」にみられる電機神奈川地協らしさをさらに伸ばしていきます。

最後に、組合員ならびにご家族の皆様のご健勝・ご多幸、さらには各労組のご発展を祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 相馬市視察　防災備蓄庫～磯部地区

備蓄倉庫の内部

備蓄倉庫前にて記念撮影

相馬市で最初に訪れた場所は相馬市防災備蓄倉庫である。

震災の経験を踏まえ十分な収容能力を備えた倉庫で、3日間1万人分もの食料などがストックされている。また、大型のシャッターは電気だけでなく、ポンプ車の水圧によっても開閉可能とのことであり、有事の際のリスク対策も万全だと感心した。

次に訪れた相馬市磯部地域では、約2000人のうち251人が津波の犠牲となった。

この地域は、塩害被害により農作が困難となり、2015年3月以降、110haのうち70haにソーラーパネルを設置し、発電した電力の一部の収益を農業振興のために充てている。

このように、震災があった地域だからこその備えや、復興のための工夫がされていることを知ることができた。このことを多くの人に伝えていきたい。　【アンリツ労組】

磯部地域のメガソーラー

4. 相馬市視察　公営住宅～漁業組合～相馬市伝承鎮魂祈念館（語り部講話）

公営住宅の様子

①公営住宅

住宅利用者に対し「孤立させない」取り組み（洗濯機だけは各戸に置かず、施設の一か所に集約させ、住民同士の顔がお互いに確認できる工夫など）や、震災経験を活かした設備など、住居が非常に印象的であった。また、夫々の自立に向けた仕組みは将来的に個々の生活の基本設計にも繋がると感じられた。

【東芝労組京浜支部】

②漁業組合

地元の漁業での深刻な問題は「風評被害」であった。今回の取材内容を「我々が如何に伝えるか?」が重要だと感じた。しっかりとした検査もされており、安全である事をもっと皆で認識できるようになれば、復興への一助になると思い、今後意識していきたい。　【東芝労組京浜支部】

相馬沖産魚介類の直売所の様子

③相馬市伝承鎮魂祈念館（語り部･五十嵐さん）

報道映像は脳裏に残っていたが、ご家族を亡くされた方から直接お話を聴いて「命の尊さ」「家族の大切さ」が胸に突き刺さった気がした。津波の時、「そんなにすごいことにはならないだろう」とすぐに逃げなかったことへの「後悔」という苦しみを背負われていると同時に「前を向いて生きる強さ」をお持ちの方だと感じた。

【東芝労組京浜支部】

語り部・五十嵐さん

5. 第一原子力発電所周辺視察（車窓）　浪江町～双葉町周辺

町の様子

常磐自動車道の浪江ICを下りると、田んぼや畑だったと思われる場所は雑草や若木が生えていて、周りを雑草に囲まれている家が点在していた。また、主要道路だけは通行が出来るが、交差する道路や家の入り口にはフェンスが立っていて車が進入できないようになっており、所々に警察･警備員が立っている。映像で見たり、話には聞いていたが、実際に目にした衝撃は大きかった。

当たり前のように多くの人が生活して、仕事をしていたであろう町の中心街に人ひとりいない世界。復興が進んでいる相馬市などに比べて、復興までの道のりはまだまだ長いことを感じた。　【福祉対策部　入江】

常磐自動車道の線量計

常盤自動車道を北へ走行していると放射能計測表示が一定間隔で設置されており、双葉町へ近づくにつれて線量が上がっていくのを見て目では見えないモノへの怖さを感じた。

実際に街中を走行していると震災以後そのままの状態で、荒れ果てた誰もいない町はとても異様な感じを受け、自分たちではどうすることも出来ない悔しさがあった。

福島第一原子力発電所

しかしながら、その中でも汚染土壌対策や福島第一原子力発電所関係で復興に向けて努力されている方々を見かけると、非常にゆっくりではあるが確実に前進している姿に、ほんの少しかもしれないが希望はある、と感じられた。

【福祉対策部　南雲】

電機連合中央執行委員長 2017年新春の挨拶

中央執行委員長　**野中　孝泰**

あけましておめでとうございます。新しい年の幕開けをご家族の皆さま共々健やかにお迎えになられたこととお慶び申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

今年の干支は『丁酉（ひのととり）』です。『丁（ひのと）』には、壮年の男子の意味があるそうで、草木の形が充実し伸び盛りの状態を表し、一方『酉（とり）』は、草木の果実が成熟しきった状態を表すそうです。従って干と支に矛盾が感じられる年。そのことから 順調で実力も確かにあり、もっと前進しようという気持ちがあるが、一方で体がついていかないということが起こる意味合いがあるようです。そんなことから2017年は、革命的、発展的なことが多くおきる年ですが、後々時代に合わなくなって困ることがないよう何かを決定するときには慎重に対応しなければならない年と言えるようです。

さて新年にあたり直面する課題について触れておきたいと思います。

第1点は、2017年闘争です。

賃金や働き方に関して社会的な関心が高まることは大変良いことだと思います。しかし一方で『労使の主体性』や『労働組合の存在意義』ということが社会的に弱まっていることに危機感を抱かざるを得ません。働く者が抱える『生活不安、雇用不安、将来不安』を着実に払拭し、そして我々が働く職場、会社、電機産業の持続的な発展をめざし、継続した『人への投資』を実施することが必要です。もちろん国の自律的成長に向けて、国、地方、産業界、個別企業それぞれのレベルでの取組みと連携が重要ですが、電機労使としてその役割と責任を果たす闘争にしていかねばならないと考えています。統一闘争強化3年目の闘争、皆さまとの連携を更に強くして取り組んで参りたいと思います。

第2点は、仲間づくりです。

昨年末に開催した組織拡大研修会で、3つの課題を共有しました。1つ目は『組織拡大が活動の中心になっていない』。2つ目は『当該従業員会へコンタクトするルートがない』。3つ目は従業員会代表に会えても『当人達が組織化の必要性を感じていない』ということです。先ずは各組織において運動の柱の1つに位置付けて頂きたいと思います。政策委員会組合グループ内には40万人近くの未組織労働者がいらっしゃいます。働くものの尊厳と権利を守るために組織拡大を本気で取り組みたいと思います。

第3点は、共済運動の強化です。

共済の取り組みは、助け合い運動であり、労働運動そのものであります。電機連合では、スケールメリットを最大限に活かした各種制度を持っていますが、これらの制度を十分に活用して『生活保障設計』や『可処分所得の最大化』に取り組むのは、組合員自身の生活防衛でもあります。しかし現状は、ねんきん共済20%、けんこう共済25%、ファミリーサポート共済5%という加入率です。その良さをキチンと伝えてご理解頂き、加入率向上に向けた取り組みを強化したいと思います。

以上、新年のスタートにあたり思いの一端を述べましたが、大変難しい時代の労働運動です。改めて労働組合結成の原点に立ち返り、志を高く持ち、そしてチームワークを大事に電機産別運動の前進に全力を尽くして参ります。皆さまのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

今年が皆さまにとって実り多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせて頂きます。

「社会貢献活動・被災地（福島県）取材視察」報告

東日本大震災から5年以上経過している中、震災を風化させないことを目的として、この度、福祉対策部で「社会貢献活動・被災地（福島県）取材視察」を2016年12月9日（金）～10日（土）、22名の団員にて執り行いました。

視察団が現地で感じたことを加盟組織の皆様に知っていただきたく、本紙にて報告いたします。

相馬市伝承鎮魂祈念館前にて語り部の方と記念撮影

今回の視察では、神奈川地協でははじめてとなる相馬市、ならびに福島第一原子力発電所に隣接する帰宅困難地域まで足を延ばし、復興の現状を見て、現地の方の思いを聞き、あらためて復興までの道のりはまだまだ遠いと感じる視察となりました。

電機神奈川地協「福祉対策部」としても、復旧・復興への微力ながら支援するとともに、この視察の経験を活かし東日本大震災を風化させない取り組みを今後も検討、企画してまいります。

また、現地の方は「被災地に足を運んでいただけることが、震災を風化させない一番の取り組みだと思います。」と、お話していたことも申し上げ、簡単でありますが視察報告にかえさせていただきます。

【福祉対策部長　野口】

1. スパリゾートハワイアンズ　郡司支配人ご講演

今回の宿泊先である、スパリゾートハワイアンズは、自らも被災者である従業員たちが、震災直後から自主的に業務を続け、近隣広野町被災者を延べ約31,000人も受け入れた施設である。今回、ホテルハワイアンズ・郡司支配人より、震災直後の対応や、その後の復興への道のりなどをご講演いただいた。

お話しからは、震災直後の原発事故避難指示や直下型余震が続く中も、どうにか前に進まなくてはならない、という当時の非常に苦しい状況が伝わってきた。

それでも、地域のため、社会のためにと踏ん張れたのは、炭鉱の山を取り巻く町の労働者と家族、そのすべてが一家なのだという「一山一家」という考え方であり、95年に及ぶ炭鉱経営で培った常磐DNAがあったからとのこと。我々職場での働き方にも参考となる話をいただくことが出来た。

郡司支配人の講演の様子

復興のシンボル、フラダンスショーの様子

経営再建には、地域の皆さんも一丸となって「スパリゾートハワイアンズは我々のシンボル」という思いで支援してくれたとのことであり、地域からも慕われているというお話が印象的だった。

震災の影響により、２階席中央と奥で段差が残っている

また、フラダンスショーの客席ステージは、震災の影響で段差が残ったままになっている（耐震性は補修により確保されている）という話も伺い、復興のシンボルとして地域の皆さんにも愛されているフラダンスショーを見学した際には、その震災の爪痕を知ることができた。今回の視察で体感してきたことをぜひ周りの方々にも伝えていきたい。

【富士通ネットワークソリューションズ労組】

2.「地協・自組織での今後の被災地支援のあり方」グループワーク

グループワークでは、電機神奈川地協や各組織での復興支援活動の状況を共有し、それを元に今後に向けた話し合いを行った。

グループワークの様子

各組織で行われている募金活動や、地産品斡旋による売り上げの一部を支援金にする活動などの情報交換を行った。

また、被災者支援を継続していき「風化させない」ことをグループ内で誓いあった。

労働運動の原点でもある「絆」「助け合い」の精神を大切にし、被災地のみなさんと心を繋ぐ活動を今後も積極的に取り組んでいきたい。

【三菱電機労組鎌倉支部】